

中小企業景況調査報告書

平成31年4～6月期実績

令和元年7～9月期見通し






始良市商工会

(平成31年7月発行)

この調査は、始良市の産業状況等地域の経済動向について、四半期毎に変化の実態等諸状況を収集して実施しているものです。























この報告書の中で、用いられているD・I指数とは、ディフュージョン・インデックスの略で、【増加・上昇・好転】の割合から【減少・低下・悪化】の割合を差し引いた値で企業経営者の景気動向を表す指数として利用されています。

〈お天気マークの説明〉

 特に好調 +30.0 以上	 好調 +29.9～ +10.0	 まあまあ +9.9～ ▲9.9	 不振 ▲10.0～ ▲29.9	 極めて不振 ▲30.0 以上
---	---	---	--	--

- 調査対象期間 平成31年4～6月期を対象とし、調査時点は令和元年6月1日とした。
令和元年7～9月期は予測値となる。
- 調査方法 商工会の経営指導員による訪問及び面接調査による。
- 調査対象商工会 始良市商工会
- 回答企業 対象企業 30企業（※始良市30企業を基に指数を表示しており、あくまでも参考指数と理解下さい。）
製造業：7企業 建設業：7企業 小売業：8企業 サービス業：8企業

県内産業別業況DI

		製造業		建設業		小売業		サービス業	
対前年 同月比	30年 4月～6月期		▲33.3		0.0		▲50.0		16.6
	30年 7月～9月期		14.3		14.3		▲25.0		12.5
	30年 10月～12月期		▲14.3		0.0		▲75.0		0.0
	31年 1月～3月期		14.3		14.3		▲50.0		▲25.0
	31年 4月～6月期		0.0		0.0		▲25.0		▲12.5
	来期見通し(7～9月期)		0.0		0.0		▲37.5		▲37.5

総合（業況）

前年同期（平成30年4月～6月期）と比較した今期（平成31年4月～6月期）の業況は、製造業0.0（前年同期33.3ポイント改善）、建設業0.0（前年同期と変わらず）、小売業▲25.0（前年同期25.0ポイント改善）、サービス業▲12.5（前年同期29.1ポイント悪化）となった。今期の業況は、前年同期と比較して、製造業と小売業が改善したものの、サービス業の悪化が目立っている。

来期（令和元年7月～9月期）の見通しとしては、今期と比較すると、製造業、建設業では変わらないものも、小売業、サービス業は悪化の見通しとなり、依然として厳しい状況が予想される。

業種別景気動向

【製造業】 有効回答数 7企業

調査対象企業内訳：食料品(2)，窯業(1)，衣類(1)，家具(1)，印刷(1)，ガラス製品(1)

	売上額		採算		資金繰り		業況	
	アイコン	数値	アイコン	数値	アイコン	数値	アイコン	数値
30年 4月～6月期		▲33.3		▲33.3		0.0		▲33.3
30年 7月～9月期		14.3		0.0		14.3		14.3
30年 10月～12月期		▲28.6		▲28.6		▲14.3		▲14.3
31年 1月～3月期		▲28.6		▲14.3		0.0		14.3
31年 4月～6月期		▲14.3		14.3		14.3		0.0
来期見通し(7～9月期)		▲14.3		14.3		14.3		0.0

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・従業員不足により生産効率が低下し、利益のない商品を生産中止・廃版にした。新たに機械の導入により生産工程の改善を行っているが、依然として生産人員の不足が深刻である。
- ・新規出店や設備投資をする飲食店が減少している。元気なお店とそうでない店の明暗がはっきりしてきている。

<経営上の問題点>

- ・需要の停滞、原材料価格の上昇、従業員の確保難が上位を占め、原材料の不足、生産設備の不足・老朽化、製品ニーズの変化への対応を問題としている企業もある。

【建設業】 有効回答数 7企業

調査対象企業内訳：総合工事業(2)，設備工事業(1)，職別工事業(4)

	完成工事額		採算		資金繰り		業況	
	アイコン	数値	アイコン	数値	アイコン	数値	アイコン	数値
30年 4月～6月期		0.0		0.0		0.0		0.0
30年 7月～9月期		▲28.6		14.3		14.3		14.3
30年 10月～12月期		▲14.3		0.0		14.3		0.0
31年 1月～3月期		▲14.3		14.3		0.0		14.3
31年 4月～6月期		▲14.3		14.3		0.0		0.0
来期見通し(7～9月期)		0.0		0.0		0.0		0.0

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・特になし

<経営上の問題点>

- ・材料費・人件費以外の経費の増加、材料価格の上昇、官公需要の停滞、熟練技術者の確保難が上位を占め、取引条件の悪化、従業員の確保難、人件費の増加、下請け価格の上昇を問題としている企業もある。

【小売業】 有効回答数 8 企業

調査対象企業内訳：飲食料品(4)、衣服(1)、各種商品(1)、石油(1)、その他(1)

	売上額		採算		資金繰り		業況	
	アイコン	数値	アイコン	数値	アイコン	数値	アイコン	数値
30年 4月～6月期		▲50.0		▲75.0		▲75.0		▲50.0
30年 7月～9月期		▲25.0		▲25.0		▲12.5		▲25.0
30年 10月～12月期		▲37.5		▲25.0		▲12.5		▲37.5
31年 1月～3月期		▲62.5		▲37.5		▲37.5		▲50.0
31年 4月～6月期		▲37.5		▲12.5		▲12.5		▲25.0
来期見通し(7～9月期)		▲25.0		▲25.0		▲12.5		▲37.5

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・商店街への来客数が減少している。
- ・大型店舗、同業他者の進出により厳しい経営環境にあると感じる。自社の強みを再確認し、地域に無くてはならない店づくりを実践していきたい。

<経営上の問題点>

- ・大型店・中型店の進出による競争の激化を問題点として企業が多い。また購買力の他地域への流出、販売単価の低下・上昇難、仕入単価の上昇、消費者ニーズの変化への対応が上位を占め、同業者の進出、人件費以外の経費の増加、店舗の狭隘・老朽化、需要の停滞を問題としている企業もある。

【サービス業】 有効回答数 8 企業

調査対象企業内訳：洗濯業(2)・理美容業(3)、飲食店(2)、その他(1)

	売上額		採算		資金繰り		業況	
	アイコン	数値	アイコン	数値	アイコン	数値	アイコン	数値
30年 4月～6月期		16.6		▲16.6		0.0		16.6
30年 7月～9月期		▲25.0		▲12.5		12.5		12.5
30年 10月～12月期		0.0		▲12.5		0.0		0.0
31年 1月～3月期		▲12.5		▲12.5		▲25.0		▲25.0
31年 4月～6月期		▲12.5		▲25.0		0.0		▲12.5
来期見通し(7～9月期)		▲12.5		▲12.5		▲12.5		▲37.5

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・経営者が高齢のため思い切った事ができない。周辺人口が減り集客が難しくなっている。同業者の店舗も増え競合が厳しくなっている。仕入単価は上昇しているが料金は上げにくい。
- ・米中の貿易戦争の影響で景気がぶれているのを感じました。実際、直接影響のない人も、メディアでそういう不安な報道があると、心理的に色々な面で控えめな行動に出るような気がします。
- ・従業員の確保難により、残って働く従業員の負担が増加している。また、その理由からお客様を制限する日も増え、売り上げにも影響を及ぼしている。セルフオーダーを導入するか検討しなければならない。

<経営上の問題点>

- ・従業員の確保難、利用者ニーズの変化への対応、人件費の増加、店舗施設の狭隘・老朽化が上位を占め、新規参入業者の増加、需要の停滞、大業の進出による競争の激化、人件費以外の経費の増加、材料等仕入単価の上昇を問題としている企業もある。

鹿児島県金融経済概況

【概要】

鹿児島県の景気は、緩やかな回復を続けている。

すなわち、最終需要面をみると、個人消費は、底堅く推移している。観光は、堅調な動きとなっている。住宅投資は、貸家を中心に弱含んで推移している。公共投資は、下げ止まりつつある。生産は、弱含んでいる。

企業部門の動向を短観（6月<鹿児島・宮崎両県集計分>）でみると、景況感は、良好な状態を維持している。設備投資は、高水準で推移している。また、人手不足感は、強い状況が続いている。こうした企業動向を反映して、雇用・所得環境は、改善している。

【各論】

1. 個人消費

百貨店・スーパー販売額と家電販売額は、前年を下回って推移している。乗用車新車登録台数（含む軽自動車）は、前年を上回って推移している。

2. 観光

主要ホテル・旅館宿泊客数は、前年を上回った。主要観光施設入場者数は、前年を上回って推移している。

3. 公共投資

公共工事請負金額は、前年を下回った。

4. 住宅投資

新設住宅着工戸数は、持家、貸家、分譲のいずれも前年を下回った。

5. 生産

鉱工業生産指数（季節調整済）は、電気・情報通信機械、汎用・生産用機械を中心に前月を上った。

6. 雇用・所得環境

求職者数は減少基調を続けており、有効求人倍率（季節調整済）は、高水準で推移している。

現金給与総額は、前年を下回って推移している。

常用労働者数は、前年を上回って推移している。

7. 物価

消費者物価指数（生鮮食品を除く総合）は、前年を上回って推移している。

8. 金融面

預金、貸出金とも、前年を上回って推移している。

貸出約定平均金利は、緩やかな低下が続いている。

企業倒産件数は、低水準で推移している。